

# アルパック ニュースレター

迎 春

平成10年元旦



今春、世界最長の吊り橋「明石海峡大橋」が開通します。(本文中に関連記事があります)

アルパック ニュースレター もくじ

1998年1月1日

- あけましておめでとうございます ..... 2
- 地域に開かれた施設づくりをめざして ..... 5
- シャーロック・ホームズと地域計画 ..... 8
- 宇治神社でご奉仕隊・体験記 ..... 9
- 押し寄せる都市化の波 ..... 11
- 東海自然歩道全コース 1,370kmを歩く ..... 12
- イタリアの高速道路の料金徴収システム ..... 14
- 今年の春は、淡路島へ行こう!! ..... 14
- 淡路島発! うまいもの通信② ..... 15
- 新刊旧刊書評紹介 ..... 17
- まちかど ..... 18

NO. **87**

あけましておめでとうございます。

変曲点を超えて

取締役会長 三輪 泰司

変曲点を通過し、カーブが寝てきました。

未だ、古い体質がたくさん残っていますので、しばらく混乱と淘汰が起こるでしょう。

The 4 Way Test

“言行はこれに照らしてから” 1. 真実かどうか 2. みんなに公平か 3. 行為と友情を深めるか 4. みんなのためになるかどうか。これはロータリーの標語「4つのテスト」です。簡単なことですが、企業から、地方行政、国家の運営にまであてはまります。

ほんのちょっとした踏み外しがとんでもない泥沼に陥ります。しっかりした哲学と科学に支えられた総合計画があり、チェック機能—Testが働けば、復元力が期待できます。

環境・文化・安全

昨今、計画づくりとチェックに、忙しい目にあっています。

成長が停滞するとヨーロッパが引き合いに出されます。我々が今、そのまま踏襲するわけにはいきませんが、その高質なストックはたいしたもの。護ってきた情熱と態勢は学ぶべきことです。1. 今有るものを護る 2. 繋ぎあわす 3. 足りないものを捕う というアルバックのセオリーは正しかったと思います。

文化遺産と地球環境を護り、修復するには科学技術が生きてきます。交流が経済も動かします。それが“活性化”ですが、もう一つ“安全”が加わってはじめて回転します。

変曲点通過の態勢を整え、そこを超えて目指すアルバックの目標はこの三つ。カギは科学技術・交流及び強固な倫理性です。

地域の活力増強と人・組織の役割  
発揮をめざします

代表取締役社長 金井 萬造

昨年は9月に創立30周年記念事業として、「時代の変換点を読む」のフォーラムと交流会を開催し、多くの方々にご参加をいただきありがとうございました。

地域をめぐる社会経済状況は厳しいものがある中で、ますます地域の活力をつけていくための対策と行動が必要な時代になっています。21世紀を目前にして、地域を支える主体の形成や人材の育成がますます重要になっています。

アルバックとしても年齢階層の多様性を活かした創意ある取り組みを強めたいと思っています。

人が元気になり、地域の資源と価値を再発見し、地域の将来像・イメージを深化させて、地域の多くの起業化の芽をつくり育てていく仕事により力点を置きたいと思っています。

地域を活性化させるためには多くの立場、多くの分野の方々との連携しながら個性的で創意ある取り組みの積み重ねが必要です。

業務とともにボランティア的取り組みも増加していくものと思います。

これらの過程を通して、人・地域・組織が鍛えられ、地域の活性化に少しでも参加と貢献できれば、コンサルタントとしては最高の幸せです。

アルバック自体、多くのことについて能力アップが課題となっていますが、本年は皆様方のご支援、ご指導を賜り、大きな一歩を進めたいと念願しています。

厳しい社会経済環境打開に所員一同より一層の努力に傾けていく決意です。

## 時代の転換点に立ち向かう

京都事務所長 山口 繁雄

今、時代は西欧文明から東洋文明への過渡期にあると言われています。東西文明の興亡には 800年周期説というのがあり、その移行には 100年程度かかるそうです。今世紀末から21世紀初頭にかけての約 100年がそれに相当するのではないかということです。

確かに西欧型近代化が成熟期を迎えて、エントロピーが増大していますので、紆余曲折はあるかもしれませんが、徐々に東洋の時代が来るのかもしれない。

人々の生活文化に対する欲求が西欧発のもので満足できなくなれば、新しい生活文化への欲求は高まることが予測されます。その時「東洋発」の新しい提案が、世界に受け入れられる可能性は大いにあるように思えます。

これからの時代、人々は一体何を求めるのか、どのような生活文化を指向するのか等を見定めて、そのニーズに対応したものを創造的に生み出していくことが必要となっています。

また、京都では、昨年末に「地球温暖化防止京都会議」が開催されましたが、地球温暖化防止のためには各国の知恵と力を合わせ、持続可能な経済成長と生活文化のあり方を追求すべきであるという討議が展開されたかと思ひます。

永きに渡って東洋の文化を蓄積・消化し、西欧型近代化をも進めてきた京都で、東洋発の新しい施策提案ができないものかと思案を巡らせています。東洋で培ってきた生活文化の中にきっとそのヒントが潜んでいると思うからです。

## 時代のニーズをつかむ

大阪事務所長 杉原 五郎

昨年11月の上旬、大阪事務所の典型業務報告会を行いました。40名近い所員が参加し、朝から夕方まで7時間を越えるロングランとなりました。報告のテーマは、「廃棄物問題」「都市交通システム」「環境管理とビオトープ」「沿岸域の環境保全創造」「都市における農空間」「密集市街地の整備」「景観計画」「ランドスケープデザイン」「震災マンションの復興支援」「温泉を活用した地域施設の建築設計」の10テーマ。業務をとりまく社会的状況や業務の進め方をめぐり熱っぽい情報交流を行いました。

11月下旬、鳥取県の智頭町で開催された杉下村塾に参加しました。この塾は、9年ほどまえから地元の郵便局長さんや町役場の職員それに大学の先生やコンサルタントなどの応援団が加わって始められたものです。この智頭のグループが提案した「ひまわりシステム」（お年寄りの家を郵便局の配達員が毎日ご用聞きをして回る）は、平成9年度の郵政省事業として全国45ヶ所で試行されています。現在、1/0（ゼロをイチにするむらおこしの運動）の取り組みが進められています。今年の杉下村塾では、京都大学の社会心理学の先生から「贈与と略奪の理論」についてお話をいただき、「時代の変化をどう読むか」について議論を深めました。

典型業務報告会や杉下村塾を通じて、ひととひとの関係、人間と自然との係わりについて考えさせられました。人間の営みについて深い考察を加えながら、時代のニーズをしっかりつかんで、いい仕事ができるよう本年もがんばりたいと思ひます。

あけましておめでとうございます。

今年こそ本音と建前の一致で「自  
発性と自己責任に基づく共同の福  
祉」を復権する時

名古屋事務所長 尾関 利勝

映像が流れるように眺めている時代意識や  
他人事のようなマスコミの論調に危機を覚え  
さえる程、今の変化を我が事として受け止  
めています。時代の変化は過去の常識を塗り  
替えていきます。私自身、時代に的確に生き  
るために、常識を破ることを主張し、行動し  
てきた自負がありました。所詮、釈迦の掌  
の中でのことに過ぎなかったと思えます。

先が読めない混迷の時は建前と本音の一致  
が原則になると考えます。今、日本と日本人  
の生き方（ライフスタイル）にこのことが問  
われていると思えてなりません。

国の政治・経済も、地方行政もまちづくり  
も、福祉も環境も、そして企業経営も個人生  
活も、依って立つ所は「自発性と自己責任に  
基づく共同の福祉」の復権にあります。これ  
を切り捨ててきたのが近代の大量生産・大量  
消費の社会経済構造の上に成立し、大多数の  
人が陥り、半ば常識化した戦後の無責任個人  
集合主義思想と文化だと思えるのです。

人が人として生きる力のインセンティブは  
社会的自己の確立、即ち「自発性と自己責任  
に基づく共同の福祉」の原理を取り戻すこと  
です。人を地域や企業、行政に置き換えれば、  
どこにも通用しますし、生き生きとした元気  
の良いまちづくり・企業・人に共通する原理  
です。持続する社会を求めるとすれば、人と  
社会が真に生きる力を取り戻すこと、そのた  
めの非常識、本音と建前の一致が今こそ必要  
では無いでしょうか。今年は性根を据えてね  
ばり強くこだわって行きます。失礼をお許し  
頂き、変わらぬご指導をお願い致します。

事務所設立10年目を迎えて

東京事務所長 小林 佑造

私達東京事務所も10年を迎えました。

この時期までやってこれましたのも、業務を  
はじめとし私どもに貴重な機会と場をいただ  
けましたおかげと厚くお礼申し上げます。

11月はじめ、全国81自治体の首長が参加し  
ている住民サイドの福祉行政を進める市町村  
長の会「福祉自治体ユニット」による《福祉自  
治体への道》と題した設立総会・シンポジウ  
ムがありました。内容は「未来の福祉を担う自  
治体首長とは」「福祉自治体への転換と地域行  
政の課題」でしたが、時間も短く充分な討論  
とはいいがたいものでしたが、今後参加首長  
を増やしていくとのことで終わりました。

介護を必要とする高齢者の数は2000年では  
280万人、2010年では400万人に増加すると予  
想される中、介護保険法案が成立しました。  
介護の社会化の第一歩という点では意義があ  
るものの、制度を運用する市区町村の体制整  
備など残された問題も少なくありません。実  
施までの間、時間はあるものの具体策がハッ  
キリ見えないことから行政の担当者・特別養  
護老人ホームの理事長さん達の話を総合する  
と「不安や疑念を持っている」のも事実です。

また、地球温暖化防止会議では、日本建築  
学会試算によれば新築する建築物に関して生  
じる二酸化炭素量を、ライフスタイルの改善  
も含めた既存技術・手段を複合的に活用すれ  
ば、原料生産・建設・使用の各段階で生じる  
CO<sub>2</sub>排出量を3割削減できるとしています。

私達の関わっている業務の中、このように  
まだまだ先が見えない難しい問題が数多く出  
てきています。これら難しい問題に所員一同  
取り組んでいかなければと思います。

## 今年もよろしくお願ひ致します。

時代のニーズに対応した商品づくりとサービスを！

九州事務所・(株)九州地域計画研究所  
代表取締役 山田 龍雄

新年のあいさつということで、昨年、事務所主催のゼミやセミナーで、“これからのサービス業のあり方”のヒントになり印象深かった話をご紹介します。

一つは、即席麺やレトルト食品のスープや出し汁の素をはじめ、業務用スープを作っている会社で、常時 8,000種類のアイテムがあるという(株)一番食品の常務さんに「地域ゼミ」でお話していただいた時の話です。

「当初、とんこつスープの味を知るため、博多の旨いといわれているラーメン屋を50店ほど周り、こそっとビニール袋にスープを入れて味の分析をしました。」とのこと。まさに現場主義であり、何をお客さんが求めているか、それにどれだけ応えられるかが勝負と

いう意味では我々のような業種を含めたサービス業共通の話であろうと思いました。

もう一つは、ケア付き高齢者住宅を自分自身のネットワークを活用して取り組んでいる方の話。「これから高齢者は増えるばかりであるが、公的な施設だけに頼っていたら全然間に合わない。また、民間でやればケアハウスより入居基準も柔軟な安いサービスを提供することができます。」とのこと。

今後とも益々安くて品質のよいサービス・商品づくりが求められる時代になってくるだろうと思いました。

昨年、九州事務所では所長の糸乗が社長から退き、一部体制の変更がありましたが、何かと声をかけていただけるような事務所づくりに励んでいきたいと考えていますので、今後ともお引き立てのほどよろしくお願ひします。

## 地域に開かれた施設づくりをめざして

— 桂坂 保育所・児童館 ワークショップ —

藤 正三

はじめに

最近、幼児・児童虐待や青少年犯罪が多発し、子どもをとりまく環境が大きく変化しています。これにより子どもの健やかな成長に大きな影響を与えています。このような子どもたちの置かれている環境を改善し、子どもたちが元気にいきいきと育ち、また子育てをして本当に良かったと実感できるような地域を目指して、今回保育所と児童館を合築させた公設民営の施設を京都市内の桂坂地区において新設することになりました。

これまで桂坂には保育所や児童館が無く、施設建設に対する要望が地元から強くありました。そこで市民が利用しやすく、かつ利用

しとなるような地域に開かれた施設にしていくことをコンセプトに、桂坂の地元住民が参加した施設計画づくりを行うことになりました。施設計画づくりに当たっては、利用者や管理者、地域住民のニーズを的確に把握することや、今後の子育て支援策のイメージを掴むこと、さらに市民参加を通じてまちづくりの力としていくことを目的に、ワークショップ手法を活用して行われました。

京都市での今回のようなワークショップ手法を活用した市民参加型の施設計画づくりは、嵐山中ノ島西公衆トイレ改築計画づくりに続き2回目です。(詳細はアルパックニュースレター80号参照)

## ワークショップの内容

ワークショップには地元の自治連合会会長をはじめ、PTA会長などの地元役員、子育て真最中の母親・父親などの地元桂坂住民25名と、保育所・児童館の専門家である保母5名、児童厚生員等5名、障害者施設職員1名、さらに京都市職員、コンサルタントの計約60名が参加して、5つのグループに分かれ、計4回行われました。

- 第1回ワークショップ(平成9年6月22日)  
「みんなで交流し、子育ての現状を確認しよう」
- 第2回ワークショップ(平成9年7月6日)  
「みんなで保育所・児童館を考えよう」
- 第3回ワークショップ(平成9年8月10日)  
「こんな保育所・児童館が作りたい」
- 第4回ワークショップ(平成9年9月28日)  
「こんな保育所・児童館になりました」  
～地域に開かれたみんなの保育所・児童館にしていこう!!～

また、これらワークショップに関連して、保育所・児童館を実際に利用する子どもたちの声を聞き、「子ども発」の提言とする「子どもワークショップ」も3回開催されました。

ワークショップの企画・運営等については、市職員や施設運営管理者、コンサルタントなどで構成されるプロジェクト会議が結成され、週1回定例で協議が行われました。

プロジェクト会議の協議では「ワークショップとは？」からはじまり、「保育所・児童



子どもワークショップ

館とはどのようなものなのか」「どのようなプログラムにしていくのか」「どのような保育所・児童館を作っていくべきか」など、縦割り行政の枠を越え、それぞれの立場を理解しながら1つの場で様々な議論が繰り返されました。

## 第1回、第2回ワークショップ

ワークショップでは、子育てについての悩みや感じていることを話し合ったり(第1回ワークショップ)、実際に保育所・児童館を借りて子どもの立場になって疑似体験しながら保育所・児童館を考えたり(第2回ワークショップ)して、保育所・児童館への思いを膨らませていきました。

## 第3回ワークショップ

第1回、第2回のワークショップで挙げられた意見や保母・児童厚生員等の意見を踏まえ、市職員とコンサルタントなどの設計の専門家が力を合わせて3つの配置案を作成しました。

これらの配置案は障害者に配慮し、基本的な部屋を全て1階に降ろしました。これまで児童館と言えば、保育所や老人福祉施設との合築では隅に追いやられるケースが多くありました。しかし、この3案は合築するメリットや地域に開かれた施設にすることを考え、児童館を便利な1階に配置するものでした。

第3回ワークショップでは、建設予定地にこの3案の建物形態をビニールテープで表現したものを参加者に先ず見てもらい、スケールを体感してもらいました。その後、参加者に子ども(乳幼児・児童)、親、保母、児童厚生員等、地元住民の立場になってもらって、「こんな保育所・児童館が良いな!?!」「ここはもう少しこういうふうに変更した方がよいなあ?」「ここは良い!」と評価するとともに保育所・児童館への思いなどを出しても



第4回ワークショップ

らいました。

その結果、3案の中からどのグループも「園庭が広い」「日当たりが最も良い」「使い勝手が良い」と思われる配置案を支持しました。また、こだわりも多く出され、その中には「駐車場が送迎用に必要」といった意見が多く、中には「地下駐車場を」という意見もありました。また、桂坂の冬は寒いことから、全館冷暖房や床暖房を求める声が多く出されました。

#### 第4回ワークショップ

第3回のワークショップと子どもワークショップの結果を基に、プロジェクト会議において、保母や児童厚生員等とともに、第4回ワークショップに向けた設計案の協議が行われました。協議では「どの部屋を南面させるのか」「どの部屋をどこにどれくらいの面積で配置させるのか」「敷地が狭く、ゆとりのある部屋を確保してしまうと園庭が狭くなってしまわないのでは」「保育所の園児と児童館の子どもとは生活や体格に違いがあり、空間の使い方を分ける必要がある」など、様々な立場から多くの意見が出されました。しかしワークショップ手法の特徴であるみんなの意見を平等に聞き、それぞれの立場を互いに理解し、これらを上手く集約していく、合意形成のプロセスがうまく作用し、一つの設計案にまとめることができました。

第4回ワークショップでは、みんなの思いを形にした設計案を提示しました。この案を

参加者に確認してもらい、気付いたことを質問したり、今後この案をさらに良くしていくためのアイデアを出してもらいました。

最後にこれまでのワークショップを振り返り、さらにこれからも保育所・児童館を地域に開かれた地域みんなの施設としていくために、地元住民で何ができるのか、今後の取組について話し合いました。

さいごに

今回のワークショップを通じて、保母・児童厚生員からは「はじめて設計段階で関わることができ、その段階で意見が言えた」「保母と児童厚生員等との間で交流し合えた」といった意見が述べられました。一方、地元参加者からは「ワークショップ手法により議論しやすかった」「計画段階から関わられた」

「行政と交流が出来た」「住民同士が交流するきっかけとなった」といった感想が述べられるなど、良い評価を得ることができました。

また、PTAがワークショップに参加していない多くの父母に対して保育所・児童館についてのアンケートを実施して意見を集約したり、地元参加者からも「今後、保育所・児童館の運営をバックアップする組織を結成したい」や「竣工までに愛称募集・植樹などを行っていきたい」といった声があがるなど、ワークショップの経過の中で、自分たちの施設としての責任感が徐々に芽生え、今後の運営や維持管理に対して地元住民が支えてくれるような雰囲気をつくることができました。

今後、平成9年度中に実施設計、10年度に工事着工をし、11年度に開園を予定しています。ワークショップがきっかけとなり、桂坂保育所・児童館が地域に開かれた「子どもの拠点」「子育ての拠点」など、地域みんなの施設になっていくことを期待します。

(京都事務所 ふじ しょうぞう)

## シャーロック・ホームズと地域計画

清水 武彦

シャーロック・ホームズは1854年に生れ、74年の大学生時代から1914年の第1次世界大戦前夜まで、探偵として活躍しました。

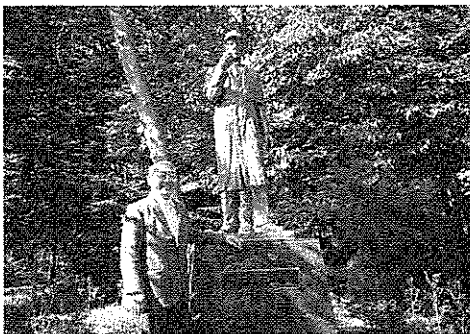
彼は都市問題の一面である犯罪と戦う闘士でしたが、その意味で英国都市計画運動の創始者たちと同時代の同労者といえましょう。

例えば「田園都市」で有名なエベネツァ・ハワードは1850年生れですし、生態学的社会学者のパトリック・ゲデスはホームズと同じ54年生れです。彼らが活動したヴィクトリア朝後期から20世紀初頭にかけての英国は、深刻な社会的災害が発生し、その矛盾を植民地政策で打開をはかる帝国主義の時代でした。

ロンドンの世界の金融センターになりましたが、その内実は、ホームズの盟友のワトソンをして「大英帝国のあらゆる怠け者が引き寄せられるあの巨大な汚水溜めのような大都会」と嘆かせるような状態でした。

ハワードは都市と農村の長所を結合させた「田園都市」による都市問題の解決を提唱したわけですが、犯罪と戦うホームズにとっては、美しく平和そうに見える田園も、「ロンドンのどんなに卑しい裏町にもまして、怖るべき悪の秘密を秘めている」のでした。

「都市の文化」を著した社会学者のルイス



軽井沢追分庚申塚公園：  
ジャパン・シャーロック・ホームズ・クラブ有志建立の  
シャーロック・ホームズ像

・マンフォードは地域計画策定の3つの段階をあげています。第1段階は環境、経済過程、歴史的伝統などの調査です。第2段階は社会の理想や目的と関連した活動について批判的な仮説をつくることです。第3段階は想像力豊かな再構築です。

ホームズはコンサルティング・ディテクティブ（諮問探偵）として、「電光石火の推理、鋭い洞察、大胆な仮定の的中を生涯の生きがい」としてきましたが、そのホームズもまた、理想的な探偵の必要条件として「観察力、推理力、知識」の3つをあげているのです。

観察力とは、事実を正確に識別する能力のことです。「君は見るだけで観察していない」というホームズの名言はオックスフォード引用句辞典の最新版にも載っています。

推理力は、観察により得られた事実を前提に仮説を発想し、それから演繹的に引き出される命題をデータにより検証することです。

ホームズは「千の犯罪に精通していれば千一番目の犯罪を解明できる」といっていますが、知識の蓄積は、観察力と推理力の発揮に不可欠な条件です。

なんとマンフォードの3段階と似ているではありませんか。探偵をあなたの職業に置き換えたら成功の3条件になるでしょう。

大久保昌一先生はアルバック創設30周年記念フォーラムで、「ポストモダン・シティ論」の追求を提唱され、各人が幸せになるという多元的な意志決定システムの必要を説かれましたが、その中にホームズ流の探偵術も取り入れてはどうでしょうか。

（監査役 しみず たけひこ）



## 宇治神社でご奉仕隊・体験記

原田 弘之

昨年の秋晴れの10月18日、京都の宇治で実験的なイベントを企画・実施する機会がありました。その名前は「宇治神社でご奉仕隊」で、神社で「ご奉仕」をしながら歴史に楽しく触れてみようというイベントです。参加者は歴史に興味のある年配の方や学生など男女合わせて9人です。宇治神社とは宇治の氏神で、創建 313年といわれる宇治で最も古い神社です。本殿は鎌倉時代のもので国の重要文化財。他に木造狛犬や白色厨面など貴重な文化財が伝わっています。日本書紀によれば、祭神の菟道稚郎子命うじのみこいらつこのみことは、応神天皇を父とする皇太子ですが、兄の大鷦鷯皇子おほほささぎのみこと（のちの仁徳天皇）との皇位をめぐる葛藤から大阪から逃れ、宇治川に入水したという悲しいエピソードがあります。実は「宇治」という地名は、もともとは祭神の名前にある「菟道」と書き、この「菟道」は菟道稚郎子命が宇治に逃れるとき「菟」に導かれたという伝説から来ているそうです。

### 本殿でお掃除

当日は、まず社務所にて宮司さんから、上記のような神社のゆかりや祭りなどについて紹介していただくこと20分。いよいよ本殿へ雑巾掛けに向います。何ととっても重要文化

財なので、「本当に入ってもいいの?」と言いながら、恐る恐る本殿の階段を上っていきます。宮司さん曰わく「1年に1度しか掃除はしない」ということで、砂埃や落ち葉が床にたまっています。まずは掃きそうじを行い、できたところから雑巾で拭いていきます。参加者は各自持ってきた雑巾で思い思いの場所を拭き清めます。しかし雑巾はすぐ真っ黒になり、バケツで濯ぎます。どんどん拭き込んでいくと、黒い雑巾にかすかに朱色のものが出てきます。ひょっとして「鎌倉時代に塗られた朱塗りか?」。この間30~40分ですが、一通り拭き終わると、何とも言えず気持ちが良い。いつの間にか宮司さんは正装している。なんとお宮参りの一行がやって来ではないか。急なお仕事が入ったようだ。ちょうど掃除が終わった本殿へ、「きれいにしておきましたよ」とみんなで迎え入れる。私たちは、いそいそと引き上げ、本殿前で雑巾をかざして記念撮影をしました。

### 「私たちの宇治神社・体験パンフレットづくり」

社務所に引き上げた後は、つかの間の休憩・交流タイム。宇治特産の茶団子とお茶で一服です。宮司さんも急なお仕事を終えて戻ってきました。さっそく宮司さんも交えて和や



思い思いの場所を拭き清める参加者



ほこり高きご奉仕隊の面々

かな雰囲気の中くつろぎます。次のプログラムは、「私たちの『宇治神社・体験パンフレット』づくり」です。もともとは、宇治神社に来訪者用のチラシがないことから、今回の体験の中で宮司さんの話をもとに、紹介パンフレットのようなものがつくれないかと、思いついた企画です。まず、宮司さんのお話をみんなで振り返ります。その中から主要なテーマを3つ選び、それを3～4人ずつの3グループに割り振りました。各グループは与えられたテーマについて、宮司さんのお話を思い出しながら、あるいは再度お話を伺いながら、色ペンで模造紙にまとめていきました。出来上がりは上々です。イラストあり、地図あり、4コマ物語ありのわかりやすく楽しいものができました。この間約90分。残念ながらここで終了時間が来てしまい、残りは宿題扱いとなりました。

#### 「私の宇治神社」カードづくり

宿題扱いとなったのは、「ご奉仕体験の中で見つけた『私の宇治神社』」のカード作成です。今回の体験を通して、あなただったら宇治神社をどのように紹介しますかということ、売り文句とその理由をカードに記入してもらいます。結果は「源氏物語よりも古く」や「菟の道!」「宇治の氏神 宇治神社」など宮司さんのお話をもとに売り文句をつくった人のほか、「宇治神社は芸がこまかい!」として、ご奉仕中に観察したのか、本殿の屋根のたる木にある「彫刻」を紹介している人もいました。その他、「腕につく軽くて重いこのほごり」という売り文句で、「ご奉仕の中で、腕についたほごりは、実際にはもう出ないとしても、時間の積み重ねを思い起こさせるものでした。ちなみに誇りと埃をかけたつもりです」とコメントしている人もいました。後日、イベント当日に行ったグループ作

業の成果と、各参加者がつくったカードを編集し、「宇治神社でご奉仕隊・体験記(パンフレット)」を作成しました。そして感謝の気持ちを込めて、宮司さんにお渡しするとともに、参加者にもお返ししました。

#### 「私たちの歴史街道」へ向けて

実はこの取り組みは、歴史街道推進協議会が実験的な試みとして行った事業です。「歴史街道」とは関西を歴史文化の発信基地にしようとして、財界や行政が連携しながら取り組んできたプロジェクトです。当初からかれこれ5年以上経ち、「歴史街道」の名前は一通り知られてきたようで、次のステップとして住民や来訪者の視点、遊びの視点をもっと組み込んでいこうとしています。そこで今回、こうした視点を取り入れ、宇治を舞台にボランティアで集まった若手の研究者やプランナー、学生等が実験的なイベントを企画・実施したのです。

この「宇治神社でご奉仕隊」では次のようなことをねらっていました。これまで歴史街道というと、観光客が有名なお寺や神社を廻って、「一方的に見る」ことが多かったのですが、今回「ご奉仕」に注目し、参加者が神社に対して、可能な「お手伝い」をする中で宮司さんとふれあい、神社という文化財の維持管理に少しでも貢献する中で宮司さんに喜ばれる。一方、宮司さんは参加者に神社のゆ



宮司さんをまじえ体験パンフレット  
づくり

かりや文化財などを紹介する中で神社をアピールし、参加者に神社をより深く理解してもらい、満足してもらおうというように、お互いの「相乗的な交流」をねらっています。さらに将来的には、こうした神社をはじめとする歴史資源が、市民との宗教的な面も含んだ多様な交流の中で、地域の資源として守られ、

新しいかたちで活かされていくことが期待されます。多様な市民が支え、楽しみ、交流する「私たちの歴史街道」づくりへバージョンアップする時期が来ていると思います。宇治での実験結果の感想です。最後に宮司さんお忙しいところありがとうございました。

(大阪事務所 はらだ ひろゆき)

押し寄せる都市化の波  
～インドネシア訪問記～

高田 剛司

昨年秋、(社)日本都市計画学会関西支部の国際交流委員会による視察団(団長：鳴海邦碩・大阪大学教授)の一員として、インドネシア・ジャワ島のジャカルタ、バンドン、ジョグジャカルタ、スマラン及びバリ島に出掛けてきました。これは、インドネシア諸都市の視察と大学の都市計画専門家との交流を目的に企画されたものです。

インドネシアへの訪問は、私にとって、学生の時の調査研究以来2年ぶりです。今回は4回目になり、久しぶりに第2の故郷への「里帰り」が実現しました。

今回、2年というわずかの歳月の間にも、インドネシアの急激な都市化に驚きを感じました。そのいくつかをご紹介します。

インドネシアの首都ジャカルタの北海岸では、埋立による高級住宅地の開発が進んでいます。衛星放送受信可能な大パラボナアンテナ付き住宅や高級マンションが売り出されており、庶民にとっては高値の花(写真1)。一部の富裕層の買い物ではありますが、このような高級住宅団地が、首都近郊の地域でどんどん建設されているそうです。

写真2は、一見するとシンガポールの高層住宅かと見間違えてしまいそうですが、まぎ

れもなくインドネシアの風景です。もちろん、2年前にもこうした高級・高層マンションの建設は進んでいましたが、かつてジャカルタの街を一面覆っていた赤茶色の屋根(カンボン：庶民の住む密集住宅地)よりも、今や銀行などの高層ビルや高層マンションの方が目につきます。

インドネシアの総人口は、現在2億人を超え、その内の6割がジャワ島に集中し、なかでも他のアジア諸国と同様、大都市への人口集中が顕著です。都市化の進行は、住宅の需要を促しますが、インドネシア第4の人口を抱えるバンドンでは、農地や丘陵部の宅地化



写真1：超豪邸！マリーナ付きセカンド・ハウス(ジャカルタ) 出典：パンフレット



写真2：ここはシンガポール？高層マンションの建設ラッシュ！(ジャカルタ)



写真3：宅地化の波は、周辺部にも… (バンドン)

が急速に進んでおり、都心から車で1時間離れた郊外の丘陵地でもご覧のとおり(写真3)。低位の南部地域では、雨季になると洪水が起こり、都心と周辺を結ぶ幹線道路では、交通渋滞が慢性的に発生するなど都市問題が深刻化しています。

最後の2日間はバリ島に滞在し、伝統的な集落を訪れたり、リゾート開発地を視察して、自らも「癒やしの空間」に身をゆだねたのでした。

(大阪事務所 たかだ たけし)

東海自然歩道全コース1,370kmを歩く  
—その1—

藤原 宣昭

#### 東海自然歩道とは

東海自然歩道“Toukai Nature Trail”という主に山の中ばかりを選んで歩く、1,370km(一説に1,340km)のTrekking Routeがあります。これはおよそ25年前に、当時発足して間もない環境庁が、その頃の歩け歩け運動のブームに合わせて、沿道の11都府県(大阪、京都、滋賀、奈良、三重、岐阜、愛知、静岡、山梨、神奈川、東京)の協力を得てルートを設定し、道や標識を整備した自然歩道で、西の起点は大阪の箕面山・明治の森公園、東の起点は東京の高尾山・明治の森公園です。

#### 全コースを通して歩く

この程私はこのコースを西から東へ完全に歩き切りました。1994年5月11日に箕面の起点を出発し、連休などを利用して少しずつ歩き繋いで、1997年10月11日、始めてから3年5ヶ月ぶりにやっと高尾山口の東の起点に辿りついたのです。

今記録を整理してみると、コースの歩きだけに要した日数はほぼ54日ですが、その都度の歩きの区切りまでの交通機関での移動なども入れると70日ぐらいにはなります。コースの分だけで1日平均25km歩いたことになり、重複して歩いた分やコースの区切り地点までのアプローチなども入れると30km近くは歩いているでしょう。

始めのうちの大阪近辺では日帰りで距離を稼ぐことが可能ですが、だんだん遠くなってくると前に到着した地点までの移動に時間がかかり、早朝出発ができず効率が落ちるため、どうしても宿泊しながら何日か続けて歩くことになります。宿泊は、旅館・保養施設・民宿など一応整った施設以外に、無人小屋や駅の待合室、マイカーの中、その他野宿に近いのも入れるとおおよそ35泊ぐらいはしています。

かかった費用は交通費、宿泊費、食料費、通信費、消耗品費などを込めておよそ100万円程度です。3年半の道案にしては自分では意外と質素に行けたのではないかと思っています。

#### ルートと距離

よく誤解されるのですが、東海自然歩道は東海道とは全然違うものです。東海道はせいぜい500km足らずですが、このルートはわざわざ選んでできるだけ山の中を通り、また土地々々の名所旧跡などを巡るように設定されており、それに主にルートの約1,000km以外にも、枝道として、山辺の道コース約230kmと恵那・

明智コース約120kmがあるため、大阪・東京間  
が1,400km近くにもなるのです。

主ルートは箕面から茨木・高槻の山間地、  
京都の大原野・嵯峨野・清滝・高尾・北山・  
鞍馬・大原・比叡山、滋賀の三井寺・石山寺  
・信楽、三重の拓殖・鈴鹿峠・湯の山、岐阜  
の養老公園・関ヶ原・揖斐高原・谷汲・根尾  
・三田洞・各務原、愛知の犬山・定光寺・足  
助・鳳来寺山、静岡の北遠州・秋葉山、更に  
静岡と山梨の幾つかの峠と川を越えて富士の  
裾野へ、次いで朝霧高原・富士五湖・青木が  
原樹海を巡り、神奈川の丹沢の険を越え、相  
模湖を経て東京の高尾山へと続きます。

枝道の山辺の道コースは大津石山寺で主ル  
ートと一旦別れ、宇治・和束・月が瀬・笠置  
山・柳生・奈良・天理・桜井・長谷寺・室生  
寺・曾爾高原から青山高原を経て柘植で主ル  
ートと合流しています。

もう一つの枝道、恵那・明智コースは犬山  
で主ルートと一旦別れ、可児・御嵩から旧中  
山道に入り、恵那からこれを逸れて岩村・明  
智を経て、奥三河の摩比曾岳の山頂で主ル  
ートと合流しています。

### Trekkingの難易度

東海自然歩道には草深く険しい山道あり、  
ある程度整備された林道あり、時に集落の中  
の生活道路や稀には市街地の舗道も通ります  
が、全体としては決して楽なPicnic Course  
ばかりではありません。かなりの悪路・危険  
箇所もありますし、全体に登り下りの繰り返  
しが多く、最も標高の高いところ（神奈川  
県の丹沢山塊）では、1,400mを越えています。

特に岐阜県の揖斐高原以東、富士川までの  
区間では、揖斐、根尾、長良、木曾、矢作、  
天竜、大井、興津、富士などの大きな河川を  
次々に横切る形になっているため、どうしても  
それらの流域の分水界をなしている山並み

を次々に越えなければならないことになりま  
す。

そういう訳で東海自然歩道は単なるHiking  
Course ではなく、あくまで山間地を貫くそ  
こそこ歩きの応えのある《Trekking Route》  
なのです。

### 何故歩くのか

この山道を歩き続けているのは私だけでは  
ありません。いろいろな年齢の多くの人達が  
単独で、あるいは仲間を組んで歩き続け、ま  
た既に歩き切った人も沢山にいます。1年以  
内に歩き切った超健脚の豪の者、粘り強く10  
年かかって為し遂げた人、そして未だ達成途  
中の人....。

私はルート上で知り合ったりして同好の友  
がで、手紙やInternetで情報交換し合っ  
ています。たまには一緒に歩く仲間もいます。

私自身は西から東へ歩き終わった今、東か  
ら西への復路歩きを次の目標にしました。既  
に現在進行形に入っています。

何故人々は歩き続けるのか....。

後からこじつけた屁理屈に過ぎませんが、  
私には私なりの理由があって歩いているつも  
りです。そのことについては出来れば次回以  
降に、復路歩きの進行状況の報告とともに書  
かせていただきます。

(OB ふじわら のぶあき)



イタリアの高速道路の料金徴収システム  
～テレパス～

中村 孝子

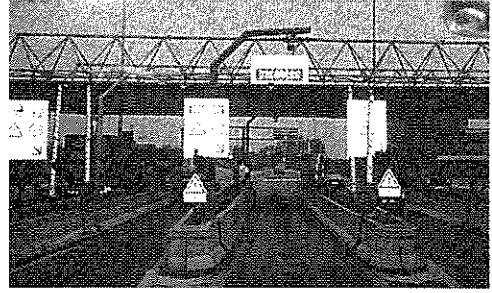
私ごとですが、昨年の夏、普通免許を半年がかりで取得しました。そのせいか以前は気にもとめなかった道路の風景が最近では違って見えます。

さて、先日イタリアを訪れたおり、バスでの移動中のできごとです。何度か高速道路のゲートを通る際、日本とは違う光景が目に見え込んできました。なんとバスは料金を払わずにゲートを通っているのです。

日本ではお金を払っているのにもかかわらず、料金所付近で交通渋滞に巻き込まれ、いつも助手席でうんざりしていた私は、早速、運転手とガイドにヒアリングをしました（おかげで道路公団関係の人に間違われました）。

これは、“テレパス”という交通渋滞を緩和するための自動料金徴収システムで、イタリアでは4年前から導入しているそうです。あらかじめ登録した車の車体にはプレートがついていて、ゲートを通る際、センサーが感知し、前方のバーが上がります（通過時にはピーという音が2回します）。ゲートはプレートのある車用とない車用に分かれていて、車が減速せずに通過していくのが印象的でした。料金は後払いで1ヶ月分まとめて銀行口座から引き落としされます。このシステムの導入により、通過台数が1分間4台だったのが16台程度になったとのことで、感心してしまいました。「もし、ずるい車が、プレートをつけている車に続いて通過したらどうなるのか？」と聞いてみたら、やっぱり同じことをした人がいたそうで、バーが上がらず渋滞したそうです。

さて、日本の有料道路では、イタリアのよ



テレパス (TELEPASS) の専用ゲート

うな料金徴収システムを検討しているのでしょうか。早速、調べたところ勉強不足でした。

小田原厚木道路・小田原料金所では、既にこのシステム（ETC：ノンストップ自動料金収受システム）を平成11年の全面実用化をめざしてテスト的に導入しています。料金の支払いには前納と後納が検討されています。

また、ETCは車もたらす大気汚染や交通渋滞などの問題の解消、交通施設整備の財源の確保などを目的に、都心に流入する車から通行料を徴収する施策“ロードプライシング”（ノルウェーのオスロ、シンガポールなどで導入）の支払方法として応用されているそうです。

私は、まだ運転技術が未熟で怖くて高速道路を利用できません。でもいずれは、小田原までこのシステムを見にいってみようとして現在猛特訓中です（心優しい同乗者を募集中！）。

（大阪事務所 なかむら たかこ）

今年の春は、淡路島へ行こう！！

高野 隆嗣

いよいよ明石海峡大橋が開通します

今春4月5日に「明石海峡大橋」が開通します。これにより淡路島への交通アクセスは大きく様変わりし、明石海峡大橋を挟んだ阪神～淡路間の交流も、より盛んになると考え

られます。県下では未だ阪神大震災の爪跡が少なくありませんが、観光地としての魅力はいっぱいです。

昨年の10月に“観光ひょうご”復興キャンペーン推進協議会主催の「神戸・淡路視察ツアー」に参加しました。このツアーから、私の「おすすめポイント」を紹介します。

#### ミュージアムパーク・アルファピア

洲本市の市街地にあった紡績工場を活用し、'95年にオープンしたレンガ造りの施設。古き良きアメリカを生き生きと描いた画家ノーマン・ロックウェルの作品のほか、ジオラマや版画などで構成された「アメリカン・カルチャー・ミュージアム」、地元の食材を使ったレストランなどがあります。中でも、教会調の内装を施した展示室にあるスペインの天才画家J・T・リャドの作品群は必見。

#### バルシェ香りの館

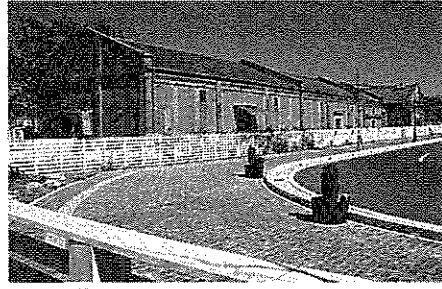
線香の生産高日本一の町、一宮町にある「香り」のテーマパーク。園内には150種類の芳香樹林とハーブがあり、館の中は何とも芳しい香りです。リース造りの体験コーナー、香りの湯などのほか、女性ばかりか男性も群がる「オリジナルブレンド香水」のお土産など、まさに「五感」で楽しめます。

#### 淡路人形浄瑠璃館

淡路島最南端に位置し渦潮見学のメッカ南淡町の高台にある大鳴門峡記念館に併設されています。一時間間隔で人形浄瑠璃の定時講演があり、人形教室で実際に操作も体験できます。「座員は公務員」というユニークな取り組みもされている一押しスポットです。

まだまだ魅力はいっぱい

さて、兵庫県はよく「日本の縮図」といわれ、日本海から温暖な紀伊水道まで、大都市圏から農産漁村まで、実に多彩な資源に恵まれています。そして、淡路島には今回ご紹介



レンガ造りの建物を活かしたミュージアムパーク・アルファピア

した他にも、コアラのいる淡路パークをはじめ魅力あるスポットがまだまだあります。

現在、本州側の玄関口である北淡路では、島の美しい景観を活かした県立淡路島公園、国営明石海峡公園、淡路夢舞台、日仏友好のモニュメントなど淡路島国際公園都市の整備が進められており、淡路島は子供から大人までみんなで楽しめる注目の観光アイランドとなっています。

「国生み神話」の島が、名実ともに神戸から徳島（阿波の国）への路＝淡路となり、明石海峡大橋が21世紀の架け橋となる日はもう間近です。

（京都事務所 こうの りゅうじ）

淡路島発！うまいもの通信②  
うまかったぞ手作りバター・チーズ  
角南 禎子

ブラウン管を通して、遊牧民がバターやチーズをつくる光景を見ることがあっても、ほとんどの人は、つくったことがないでしょう。ましてや牛の乳搾りなんて…。

昨年、大阪事務所交流会で行った三原郡酪農農業協同組合の施設“淡路島牧場”（兵庫県三原町）では、こんな体験が一度にできました。

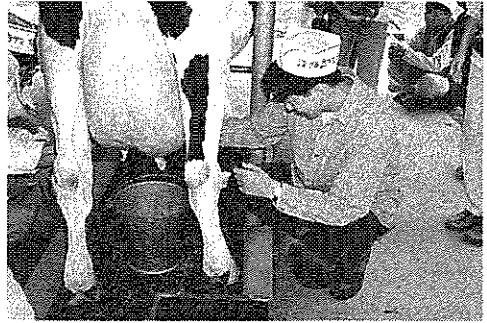
バター・チーズづくりは、係りの人のレクチャーを受けながら、搾り立ての牛乳を使っ

てトライします。バターは、分量の牛乳と生クリームを蓋付きの容器に入れ振っていきます。この間5分ぐらいですが、非常に手がだるい。中味が低脂肪乳とバターに分離しては、もうひと頑張り。再び容器をまわします。容器の蓋を開けるとなんとゴルフボールぐらいのバターのできあがりです。

引き続き挑戦したチーズづくりは、鍋に分量の牛乳を入れ加熱し、沸騰する前に火を止めて酢を加えます。ペーパータオルでこし、絞れば完成で、気合いを入れた割には、結構簡単にできました。どちらも市販の牛乳と生クリームでつくることができ、お味の方も手作りならではの旨さで十分堪能しました。

さて、牧場に放牧されている牛は乳牛でおなじみのホルスタイン。観光用に約30頭の牛がいます。うち一頭が乳搾りのお相手となりました。まずはその大きさにびっくり。オッパイのでっかさもハンパじゃありません。係りの人から説明を受け、オッパイをマッサージした後、4つの乳房のうち2つをつかんで搾ります。搾り方には少々コツがありますが、瞬く間にバケツが一杯になっていくのにはびっくりしました。（入れ替わり立ち替わりみんなにお乳を搾られる牛も大変だ！）

一頭の牛から一日にバケツ4杯もの牛乳が搾れ、もし怠れば、乳炎をおこすそうで世話



バケツに狙いをさだめて乳搾りをする人も大変だなと思いました。

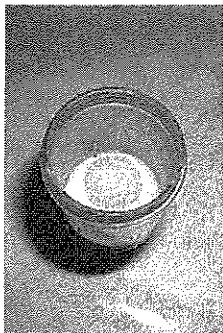
牧場では、この他にバーベキューが楽しめるだけでなく、牛乳も飲み放題です。

また、乳製品や地域の特産品を販売していて、淡路島の自然が育んだ味覚をそのまま持ち帰ることができます（私たちが訪れたときはタマネギを格安で販売していました）。

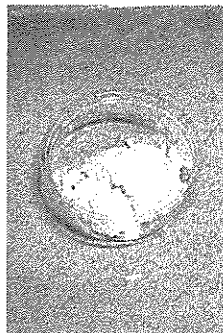
#### <帰ってからのお話>

この体験で味をしめ、自家製バターをついている所員もいるそうです。（ちなみに私も今日まで2回作ってみましたがいずれも大成功！トライしてみたい方は、ご一報を..）

（大阪事務所 すなみ ていこ）



ゴルフボールサイズのバター



できあがったチーズ

#### お知らせ

##### 西山卯三記念すまい・まちづくり文庫がオープン

◇昨年11月に関西学研都市のハイタッチリサーチパーク内に西山卯三記念すまい・まちづくり文庫がオープンしました。同文庫は、西山卯三記念すまい・まちづくり文庫運営委員会（委員長：三村浩史先生、副委員長：広原盛明先生、三輪泰司（弊社社長））により運営され、西山先生が残された戦前から60年間にわたる研究資料、著作、研究ノート、スケッチ、フィルムなど多数公開されています。詳細については、次号に紹介を予定しています。



## 新刊旧刊書評紹介

## 3冊のドキュメンタリー

西山卯三「安治川物語」西山卯三記念すまい・まちづくり文庫編／日本経済評論社  
 河野通祐「みみずのつばやき—無名建築家の生涯—」／大瀧堂書店  
 妹尾河童「少年H」上・下／講談社

紹介 三輪 泰司

まったく趣の違う3冊に共通してるのは、ノン・フィクション、自分史、近現代史。

「安治川物語」は希代の建築学者・西山卯三先生の遺稿。祖父・卯平から父・卯之助の生涯を時代背景の中で描く500頁に及ぶ壮大な叙事詩。生前に書き進めておられた原稿を弟子達が完成したのです。ご自身の歩みを書く予定であった後編は未完となりました。

父君が、詳しい資料を遺されていたそうですが、科学的な史観で日本の「近代化」を解明し、大阪の産業史としても第一級の文献でしょう。作品としての完成度の高いこと、気迫と優しさあふれる文章力にも感服しました。

河野通祐先生の著書は、ご本人の言によれば、葬送式で牧師さんが来歴を読まれるために書いておいたものを、60年前、無名建築家連名鉄扉社同人を育てられた京都の大瀧堂書店先代の遺志を継がれた、ご子息・山岸豊氏の勧めで、建築家を目指す若い人々に加筆したものだそうです。たいへんな名文で、心打たれるのは、建築家を志し時代の波を生き抜いた体験に裏打ちされているからでしょう。

妹尾河童氏は、私と同世代。舞台美術家にして、一風変わった紀行文など書く人と思っていましたが、どなたにも読んでもらいたいという著者の意志が伝わってきます。総ルビ付き上下2巻。戦中の物価がどれくらいだったか、同時代史の史料としても値打ちがありますが、昨年1月初版で、11月には21版を重ねるベストセラーとなっているのには、「未曾有の危機下、もしかしたら、一切がなくなった戦後のようになるかもしれない世相の中、

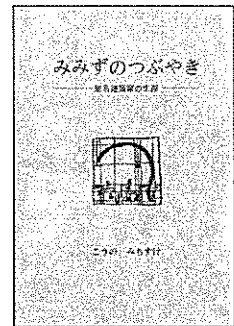
生き残るすべを探りたいという気持ちが働いているのかも知れません」と或る方がおっしゃいました。

経済危機乗り切り策より、ほんとうに若い人々に読みとっていただきたいのは、どのように日本の庶民が、じわじわと、そして一気に泥沼の戦争へ引き込まれていったかです。

いま、時代は繁栄から衰退へ、ことによたら塗炭の苦しみに陥ってしまうかも知れないのです。現実はこの三点の舞台となっている今世紀はじめよりは、複雑で判り難しくなっています。ことはより巧妙に、一見平和的な装いで進行しています。

若い方々には、そのようなこの国の風景の底に動く本質を見抜く眼と、自らの行動の姿勢を学びとって頂きたいのです。

(取締役会長 みわ ひろし)



## まちかど

アーケード新時代：‘天神花’咲き乱れる天三商店街アーケード建替完成  
馬場 正哲

大阪市北区の天神橋筋商店街は、一丁目から八丁目までの全長約 2.5km、日本一長いことで知られ、昔は心齋橋筋より栄えたれっきとした商店街です。その歴史ゆえにキタの中でもまだ大阪弁の生き残るまちです。各丁毎に商店街組織を持ち、このうち一丁目から六丁目までの商店街は、新旧取り混ぜた様々なアーケードを備えています。

昨年11月25日、天神橋筋三丁目商店街のアーケード建替事業完成記念式典が行われました。天二、天四商店街に続くリニューアルで、商店街オープン・モール化の流れの一方でアーケード街も健在です。

この天三商店街は商業の衰退を逆手に歴史と文化を活用したまちおこしで名高く、天満



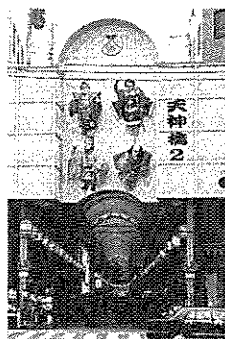
天三アーケード オープンセレモニー

宮の‘天神花’を再現した華やかさと古色と地盤を閉じこめたアーケードは、これまでの活動と理念と類希な人的ネットワークで生まれた新たなアーケードの実験とも言え、商空間として商人の頑張りや協働が期待されます。

(大阪事務所 ばば まさあき)



天一アーケード



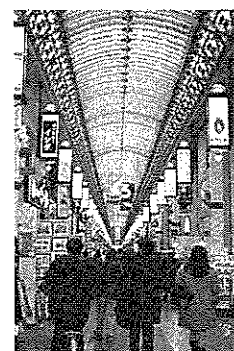
新装の天二アーケード



新装の天四アーケード



天五アーケード



天六アーケード

## アルパック (株)地域計画建築研究所

- 本社
- 京都事務所 〒600京都市下京区四條通り高倉西入ル立売西町82・大和銀行京都ビル6F/TEL(075)221-5132 FAX(075)256-1764
- 大阪事務所 〒540大阪市中央区城見1-4-70・住友生命OBPプラザビル15F/TEL(06)942-5732 FAX(06)941-7478
- 名古屋事務所 〒460名古屋市中区栄3-18-1・ナディアパークビジネスセンタービル13F/TEL(052)265-2401 FAX(052)249-3925
- 東京事務所 〒160東京都新宿区新宿2-5-16・霞ビル401/TEL(03)3226-9130 FAX(03)3226-9560
- 九州事務所 (株)九州地域計画研究所 〒810福岡市中央区天神1-15-35・ホンダハビエ5F/TEL(092)731-7671 FAX(092)731-7673